

ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師
加瀬 政美

【第9号】 小・中学校向けバージョン

1 学習指導要領に「言語の働きを大切にしながら～」と書いてある。では、「言語の働き」ってなんだろう!? “

A: 簡単に言うと、「言語の働き」とは、次の5つの場面状況で習った知識・技能を使えるかです。

- ア コミュニケーションを円滑にする。
- イ 気持ち(き)を伝える。
- ウ 事実・情報(じ)を伝える。
- エ 考えや意図(か)を伝える。
- オ 相手の行動を促す。(う)



アについては、“Where do you want to go?”なんていきなり聞かないで、“Hello, I am K. How are you?”で始めて、身振りや表情のような非言語要素を使用することで、堅い感じの会話が避けられるでしょう。また、“Oh, you like soccer?”のように「繰り返す」ことで深い理解につながります。イについては、“Thank you.”のように礼を言ったり、“Great!”や“It’s delicious.”のように自分の気持ちを相手に伝えたりします。ウは、“It’s green.”のように説明したり、“I get up at six.”のように事実を述べたりします。エは、“Let’s play cards.”のように申し出たり、“I like Fridays.”のように自分の考えを述べたりします。オは、“What’s this/that?”とか質問したり、“Hint, please.”のように依頼したり、“Go straight”のように命令したりします。私は、これを全部覚えられないので、「コミュニケーションを円滑にするにはキジを飼う!」なんて頭に入れてあります。

2 1をベースにしながら、小学校、中学校の教科書テキストは、どのようになっているのか焦点化してみよう!

そうすることで、何を視点に教材研究していけばいいのかわかってくるはずです。まず、小学校の教科書テキストは、基礎英語会話で成り立っていることがわかります。小学校は当然、「聞く」「話す」が中心で、読み物は、導入指導で紹介されている程度です。また、自分の考え(例、何になりたいか、何が好きなか、何ができるのか、それでどんな気持ちなのか)を日記シートのようなものを書く活動があります。その活動に合わせて、話せる、読めるというプロセスを大事にしているところと思います。

中学校になると、マンガの吹き出しから、ダイアログになり、テキストライブが少しずつ変わってきます。この変化と違いを児童生徒に気付かせることが大事です。次号10号で、その具体例とその場面の指導ポイントについて、触れていきたいと思っています。